

荒尾市の認知症への取り組み



おれんちのカフェの利用者とボランティアの皆さん

市は、認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活ができるまちを目指しています。幅広い世代の市民、事業者、地域団体などに認知症に関する知識の普及を図り、認知症の容態に応じた早期支援・早期治療ができるように、さまざまな関係機関と連携・協力を行いながら認知症施策を積極的に推進しています。

認知症への理解を深めることから始めよう

認知症の人に住み慣れた地域で安心して暮らしてもらうためには、地域住民の皆さんに認知症を正しく理解してもらうことが何よりも大切です。認知症を自分ごとと捉え、より身近に感じてもらえる取り組みを実施しています。

◎認知症サポーター養成講座

認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族を支える認知症サポーターを養成する講座です。60〜90分の講座で、事業者、地域団体、小、中、高校など幅広い分野で10人以上の受講者が集まれば開催します。受講者には、認知症サポーターの証である「オレンジリング」を配布しています。

認知症サポーターは、市内の認知症カフェや小中学校の認知症サポーター講座の補助などさまざまな分野で活躍しています。

●認知症サポーター養成講座の様子



地域団体の皆さん



小中学校の児童・生徒



地域包括支援センター
今林恵介 副主任
(認知症地域支援推進員)

- 家族の会「つづみ」
認知症の人の家族、医療・介護などで認知症を支援する人が集まり、対応の仕方、介護の仕方など認知症についてのさまざまな意見交換を行います。
- 日時 4月・8月・12月の第3土曜日 午後1時30分〜3時30分
- 場所 文化センター

講座終了後は、オレンジリングを腕に着けます。認知症サポーターの誕生です。

認知症の人に優しい地域をつくる

認知症の人が地域で暮らしていく中で、さまざまな問題が起こることもあります。例えば、徘徊などは昼夜を問わず行われる可能性がありますし、何も対策をしないと命にも関わる危険性があります。地域住民の声掛けなどちよつとした気付きがとても大切です。普段からの訓練や、認知症の人と触れ合う機会があれば、認知症のことをより知ることができずし、より暮らしやすい地域になります。

◎認知症徘徊模擬訓練

認知症の人が徘徊し行方不明になったことを想定し、地域が主体となつて行う訓練です。認知症の人に対する声掛けなどを行い、地域住民の認知症の理解を深め、訓練後に地域で交流会を開催することで認知症の人を支える地域づくりにつなげています。

●認知症徘徊模擬訓練



徘徊者役に声掛けする参加者。認知症について理解を深めました。



- おれんちのカフェ
白寿の家（荒尾市増永2687-17）
☎68・5322
- Cafe あおば
地域交流拠点あおば（荒尾市荒尾1074）
☎62・5500

◎認知症（おれんじ）カフェ

認知症の人、そのご家族、地域に住む高齢者や子どもなど誰でも、安心して集える認知症カフェが市内に2カ所あります。

認知症の人を支える取り組み

認知症の人は、今までできていたことができなくなるなど、自身でも変化を感じていると言われています。そのため、失敗することを避け、閉じこもりがちになる人もよく見られます。

人との接触や外出する機会が少なくなると認知症の進行が早くなる可能性がありますので、その人にあった生活を提案し、地域と関係機関が連携しながら支えていくことが大切です。

◎認知症高齢者等安心見守り連絡票

荒尾警察署が把握した認知症高齢者に関する情報を、養護者の同意を得た上で、地域包括支援センターに提供し、認知症高齢者の見守りや支援につなげています。

◎認知症徘徊高齢者登録票

認知症で徘徊行動がある人の氏名、住所、認知症の症状などを登録します。登録した情報は、荒尾警察署にも提供を行い、徘徊して行方不明になったときも早急に発見ができるように連携を行っています。

◎認知症初期集中支援事業

認知症の人や認知症の疑いのある人に、専門のスタッフが訪問を行い、必要な医療・介護サービスの検討や調整を行います。ご家族には認知症の症状に応じた対応や、日常生活についてのアドバイスを行います。支援期間は最長6カ月間です。

◎認知症地域支援推進員

「認知症地域支援推進員」を地域包括支援センターに1人配置しています。認知症の人や、不安に思っている家族の相談に乗ったり、医療・介護・地域の支援サービスにつなげる役割を担っています。ご自宅に訪問して、相談することもできます。



「問い合わせ」
地域包括支援センター
☎63・1177